

中国産輸入表に関する近況報告及び今後の動向

(いぐさ表・和紙表・ハイブリッドPP表・半P表)

概要

2021年度の収穫に関しては、国産同様全体的に減収で寧波地区はいぐさの伸びが悪く上物の収穫量が昨対60%前後であったが、四川産いぐさの伸びが良かったため価格を無視すれば比較的需給バランスが良かったといえる。

しかし、寧波地区を襲った台風による水害により苗の一部が消滅し植え付け面積がかなり減少した。その為、高い苗（通常価格の5倍）を仕入れて植え付け、コストアップした肥料を使用し、高騰した人件費で作業を継続しているため2022年度の新口はかなり高騰する予想。また、すでに流通過程においても製品を輸出する物流コストに海上コスト、乙仲手数料など相次いで値上がりしている中、C&F（cost and freight）の場合国内に於いても港内コスト、乙仲手数料、国内運賃のアップなど同様の現象が起きている。

さらにもっと深刻な問題はFOMC（米連邦公開市場委員会）の利上げ実施後、急激な為替変動の関係で輸入レートが大幅に上昇している事である。

（2021年8月時点 人民元/\$ 6.4638 \$/円110台→

2022年3月時点 人民元/\$ 6.3400 \$/円122円台・・・決済レート・・・）

新口について

6月の刈取で収穫量といぐさの長さ次第で価格変動するが、現在の見通しは大幅減反のため減収になる予定。また新口相場は減収、燃料高騰、人件費高騰、物流費高騰、海上費高騰等今まで以上のコストアップを全て商品にオンされてくるので相当の価格アップが考えられる。

（最低58糸100円～130円アップ、本麻綿150円～200円アップ・・・現地仕入れ価格ドル建て+TTレートの場合）

2022年3月現在 寧波地区28軒、四川地区2軒

輸入枚数800万枚・・・新口は500万枚以下の予定

今後の見通し

6月のいぐさ刈り取りに向けて生産量は著しく減少し、いぐさ原料も新口まで持ち越す工場が多いと推測される。なぜなら新口として出荷した方が売価上がる。また中国側、日本側も在庫が薄いため蔓延防止解除となった日本においては品切れもあり得るかもしれない。